

氏名	平田美佳	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	小児看護学 小児緩和ケア				
学位	博士（看護学）				
学歴	1992年聖路加看護大学看護学部卒業、1999年兵庫県立看護大学大学院看護学研究科修士課程修了、2004年ロンドン大学キングスカレッジ小児看護師コース修了、2006年スタンモアカレッジホスピタルプレイスペシャリストコース修了、2007年ロンドンサウスバンク大学子どものペインマネジメントスペシャリストコース修了、2022年聖路加国際大学大学院看護学研究科博士後期課程修了				
経歴	1992-1995年 聖路加国際病院（看護師）、1995-1997年 大阪府立看護大学（助手）、1999-2003年 神奈川県立こども医療センター（2002-小児看護CNS）、2004-2005年 St.Thomas' Hospital(Sick Children's Nurse)、2005-2008年 Great Ormond Street Hospital for Children(Senior Sick Children's Nurse)、2008-2009年横浜市立大学付属病院（小児看護CNS）、2009-2020年 聖路加国際病院（小児看護CNS）、2012-2018年 聖路加国際大学（臨床准教授）、2012-2019年 聖学院大学（非常勤講師）、2017-2020年 神奈川県立保健医療福祉大学大学院（非常勤講師）、2021年 埼玉県立大学（准教授）				
所属学会（役職）	日本小児がん看護学会（理事、国際交流委員長、専門査読委員）、日本小児看護学会（評議員、専門査読委員）、日本緩和医療学会（小児がん疼痛ガイドラインWPG委員）、子ども療養支援協会（教育委員）、日本看護科学学会、日本小児保健協会、日本専門看護師協議会、International Society of Paediatric Oncology				

【2021年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	看護学テキストNiCE 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児看護技術 改訂第4版	共著	あり	南江堂；P506	編集：二宮啓子、今野美紀 執筆：二宮啓子、平田美佳、今野美紀、佐藤洋子、三国久美 ほか33名	2021.11
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	小児がんの子どもの症状マネジメントの基本	単著	なし		小児看護、44(12)、1490-1495	平田美佳
2	"子どもと家族中心"の症状マネジメントを考えてみよう！	共著	なし		小児看護、44(12)、1489	平田美佳、有田直子、込山洋美
3	痛み緩和のための非薬物療法における遊びの意義/力	単著	なし		小児看護、45(1)、36-41	平田美佳
4	子どものがんの発病から死を迎えるまで 子どもの病と闘った母親の生きる力の軌跡：M-GTAによる理論生成	単著	あり		2021年度聖路加国際大学大学院博士論文	平田美佳
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	Nursing practice for children in need of pediatric palliative and end-of-life care in Japan: A nation-wide survey	共同		14th Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference, Online, Japan	Yuko Nagoya, Mari Matsuoka, Naoko Takenouchi, Mika Hirata, Naoko Arita, Kazuko Kawakatsu, Tomoko Furuhashi, Mitsuyo Ishiura, Fumi Nakatani	2021.11
2	がん薬物療法における曝露予防に関する教育と実践の実態 ～看護師とメディカルスタッフを対象としたweb調査～	共同		第19回日本小児がん看護学会学術集会、Web開催（大阪）	○平田美佳、綿貫由夏、山本光映	2021.11
3	がん薬物療法における曝露対策の推進に向けて実践した取り組み ～教育的活動後に見えてきた課題～	共同		第19回日本小児がん看護学会学術集会、Web開催（大阪）	綿貫由夏、平田美佳、山本光映	2021.11
4	保育園・幼稚園を対象とした新型コロナウイルス感染症予防に関するアクションリスト実装に向けて	共同		第41回日本看護科学学会学術集会、Web開催（愛媛）	本田順子、湧水理恵、小林京子、平田美佳、後藤あゆみ、望月梢絵	2021.12

(4) その他					
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称		研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費助成事業（研究活動スタート支援）		終末期にあるがんの子どもと親のHOPEを支える”子ども家族中心ケアモデル”の構築	研究代表者	2021.8～2023.3
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金事業（基盤研究B）		小児緩和ケアの対象となる子どものQOL向上に向けた看護師教育プログラムの開発	研究分担者	2019.4～2023.3
3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金事業（基盤研究C）		子どもの最善の利益をめざした「家族中心ケア」に基づく看護管理基準の開発と評価	研究分担者	2019.4～2022.3 (延長)
4	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金事業（基盤研究C）		子どものセルフケア、親のケア能力獲得を支援する看護師の教育指導力の定着・評価	研究分担者	2019.4～2022.3
3. 教育業績					
(1) 講義					
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	小児看護学Ⅱ		2	2年次生を対象とし、子どものEnd-of-Life Careおよび障がいをもつ子どもと家族への看護について、多くの事例を活用しオンライン講義を行った。各講義でリフレクションシートを活用し、学生の疑問や追加の質問に応える形式をとり、学びを深められるよう工夫した。	
2	臨床薬理学（博士前期課程CNS）		3	臨床薬理学の基礎を学んだ院生1名に、患者の服薬管理能力向上のための専門看護師としての役割を考えることができるように、状況の分析、分析を基盤とした多職種との協働の戦略についての助言を行った。	
(2) 演習					
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	小児看護学Ⅲ		15	2年次生を対象に、2グループ・1事例のPBLテュートリアル授業のファシリテータを担当した。Teamsを活用して個々の学生とグループの学びの進捗を確認し、個別にコメントを返したり、グループの進捗やダイナミクスに応じた指導を行うよう工夫し、対象の全体像のアセスメントにつながるように支援した。	
2	小児看護学Ⅳ		15	3年次生を対象に、乳児事例の看護過程の展開および小児看護特有の技術についてワークシートを活用したWeb学習および技術練習の指導を行い、根拠に基づいた小児看護技術の習得にむけた支援を行った。	
3	子どもと家族のヘルスプロモーション		8	4年次を対象に、地域で病気や障がいもちながら生活する子どもとその家族への支援に関する事前学習を支援し、特別支援学校で働く専門職へのインタビュー内容や方法およびそのまとめの指導を行った。	
(3) 実習					
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	総合実習（小児看護学領域）		2021.4～2021.8	4年次生4名を対象に10日間の特別支援学校での臨地実習の指導に携わり、グループディスカッション、個別面談、記録へのコメント記載などを通して、学生の能力と進捗に応じた指導を行った。子どもの個性に応じたアセスメントと全体像の把握、計画立案および実施評価の看護過程の一連の流れにそって学びを深める支援を行った。実習終了後は、グループ内発表および施設でのまとめの発表会に向けての資料作成の指導を行った。	

2	IPW実習		2021.9～2021.10	各学科4年次生6名を担当し、教員ファシリテータとして、学生チームの学習・実習環境を整備し、チームが円滑に機能し、学生が主体的に学びあい、対象者中心の多職種協働チームアプローチを考えられるように指導を行った。
3	小児看護学実習		2021.9～2021.12	3年次生20名（4クール）を担当し、2日間の病院見学実習および事例を用いた遠隔事例展開を実施し、子どもと家族の個別性に応じたアセスメントと全体像の把握、計画立案についてグループディスカッションを通して学びを深めた。また、一つの課題に関する文献学習によって根拠に基づいた看護計画立案となるように支援した。臨床実習の不足を補えるよう、教員の臨床経験を学生と共有し知識と子どもや家族の姿がつかえるように工夫した。
4	小児実践看護実習Ⅱ（大学院）		2021.5～2022.3	CNS課程の院生1名に対し、研究倫理審査に向けた研究計画書の作成、研究の実施について、臨床現場に即した取り組み方について指導を行った。研究のプロセスを踏む中であっても、CNSとしての子どもや家族のとらえ方、スタッフとの協働の戦略、教育戦略、倫理的な課題の調整などのCNSの役割を意識した助言を行い、小児看護実践能力の向上を支援した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	修士論文	2021.5～2022.3	主指導（指導教員）	名 副指導（指導補助教員） 1名
2	修士論文審査	2021.9～2022.2	副査	1名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	文京学院大学「小児看護学Ⅱ」	2021.7.13	看護学科の3年次生に対して「小児看護専門看護師の活動と役割」についての授業動画を作成し、オンデマンド講義を実施した。	
2	国立看護大学校「小児看護援助論Ⅱ」	2021.6.1	看護学部3年次生に対して「子どもの病気との闘いの日々をチームで支えるプレパレーション」についてのライブオンライン講義を実施した。	
3	国立特別支援教育専門研修病弱教育専修プログラム（国立特別支援教育総合研究所主催）	2022.3.7	全国から研修に応募した特別支援学校の教諭に対して「小児緩和ケアの実際」についてのライブオンライン講義とグループディスカッションを実施した。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	子ども療養支援士養成研修	子ども療養支援協会	「テーマ：子どものストレスコーピング」の講義2コマ	2021.4
2	日本小児看護学会第31回学術集会 倫理委員会テーマセッション	日本小児看護学会 倫理委員会	「テーマ：小児看護の現場での倫理的なモヤモヤ、一緒に考えてみませんか？」の倫理的課題に関するグループワークのファシリテータ	2021.6
3	日本小児がん看護学会認定小児がん看護師集合研修	日本小児がん看護学会	「テーマ：小児がん患者と家族のトータルケアについて」の事例検討のファシリテータ	2021.10
4	ELNEC-JPPCカリキュラム看護師教育プログラム	End-of-Life Nursing Consortium Japan 小児緩和ケアカリキュラム	小児緩和ケアプログラムにおける「モジュール2：症状マネジメント概論」、「モジュール4：症状マネジメント各論 痛み以外の症状」の講義、ケーススタディ・ロールプレイのファシリテータ	2021.10
5	日本小児がん看護学会 倫理倫理委員会企画研修	日本小児看護学会 倫理委員会	「テーマ：小児看護の現場での倫理的なモヤモヤ、一緒に考えてみませんか？第2弾」の倫理的課題に関するグループワークのファシリテータ	2022.2
6	こどもセルフケア理論推進会議	埼玉県立小児医療センター	会議における事例検討会にて、こどもセルフケア理論に基づく実践の推進に向けてのアドバイザー	2021.10 2021.12 2022.3
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	日本小児がん看護学会	理事		2013.1～現在
2	日本小児がん看護学会	国際交流委員、（2021～委員長）		2013.1～現在
3	日本小児がん看護学会	小児がん看護師認定部員		2022.1～2022.3

4	日本小児がん看護学会	専門査読委員	2011.1～現在
5	日本小児看護学会	評議員	2021.7～現在
6	日本小児看護学会	専門査読委員	2011.4～現在
7	子ども療養支援協会	教育委員	2010.4～現在
8	日本緩和医療学会	小児がん疼痛ガイドラインWPG WPG員	2022.3～現在
9	日本小児看護学会第31回学術集会	プログラム委員・企画委員・シンポジウム座長	2020.7～2021.7
10	第19回日本小児がん看護学会学術集会	一般査読委員	2021.6～2021.7
11	第20回日本小児がん看護学会学術集会	プログラム委員	2021.11～現在
12	日本小児看護学会第32回学術集会	一般演題査読委員	2022.3.9～3.17
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
(4) その他			
	項目	相手方等	内容
1	該当なし		
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	国際交流委員	2021.9～2022.3
2	学科等における委員会等	1年次生担任	2021.4～2022.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	若手優秀演題口頭発表	第41回日本看護科学学会学術集会	2021.12
2	博士論文（学術研究）学長賞	聖路加国際大学大学院	2022.3
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		